

## 平成 30 年度第 2 回兵庫県立図書館協議会 会議録

### 1 日時及び場所

平成 31 年 3 月 12 日（火） 15:00～17:00

### 2 出席者

協議会委員 廣岡会長 尾崎副会長 笹井委員 角本委員 西山委員  
森玉委員 西野委員

教委事務局 社会教育課木山副課長兼施設・管理班長 瀧口指導主事

県立図書館 岡田館長 清宗次長  
梶本総務課長 西田利用サービス課長 井上ふるさと・資料課長

### 3 議事

- (1) 平成 30 年度県立図書館事業実績について
- (2) 平成 30 年度第 1 回兵庫県立図書館協議会での意見・提言への対応について
- (3) 中期運営方針の自己評価（達成項目）の状況  
図書館より資料 1～3 に沿って報告

委員の質問・意見と図書館の説明

- (委員) 「明石公園をたんけんしながら植物で遊ぼう」の参加者が 12 人というのはもったいない。たくさんの人に参加してもらい本との出会いを作っていくために、広く働きかけをしていくべきと思うが、どのように募集しているのか。また、たくさんの展示をしているが、どれだけ多くの方に見ていただけるかというのも課題であると思う。そのためには、どのような広報をして、何人来たのかという実績も大切なのではないか。
- (図書館) 「明石公園をたんけんしながら植物で遊ぼう」は、例年、人気の行事だが、今年度は記録的な猛暑のため、屋外での活動を保護者が敬遠したのではないかと考えている。募集については県内の各図書館でチラシの配架をお願いしている。来年度は、もっと多くの方に参加いただけるよう、複数回実施できないか検討しているところである。展示の人数については、大閲覧室、ふるさとひょうご情報室の各閲覧室への入室状況については機械でカウントできるが、展示を見られた人数については、部屋の構造上、カウントが難しく当館としても課題の一つであると考えている。何か良い方法があればご提案いただきたい。
- (委員) 資料のデジタル化について、数が増えていないとのことだが、県立図書館として、デジタル化の今後について、どのように考えているのか。
- (図書館) また、相互貸借について、市町立への協力貸出冊数が減少しているのはなぜか。デジタル化の推進については、当館がデジタル化を進めたいと考えていた映像資料について、他部署が最近デジタル化を実施したことが判明した。そのため、その資料を取り寄せて当館で放映したいと考えている。その他の資料についても順次デジタル化ができればと考えているが、著作権の状況調査等、時間がかかる作業があり、難しい部分がある。
- (委員) 市町への協力貸出については、今年度は 7 月までの 3 か月間休館し、貸出業務もストップしていたことが影響しているのではないかとみている。
- (委員) デジタル化の予算については今後継続して予算計上される見込みがあるのか。そうでなければ、目標の柱（項目）に挙げることは無理がある。「デジタル化の現状」として参考表記する形にする方がよいのではないか。今後、予算が計上されれば報告いただくという方法でよいと思う。
- (図書館) 記載方法については内部で検討の上、対応させていただきたい。

- (委員) 県内の図書館数が100館近くあるかと思うが、それに対して館長研修の受講者数が少ないように思う。各図書館によって、館長になる方が、社会教育施設での勤務経験がある方であったり、未経験の方であったりとさまざまである。経験の有無により図書館の運営にも影響があるのではないかと思うので、研修の必要性を感じる。司書資格をもった館長の割合は把握できるか。
- (委員) 図書館にも指定管理者制度が広まってきているなかで、司書資格や図書館勤務経験者を館長の条件としているようなので、以前のように経験がない人が館長に就くというケースは減ってきているのではないかという印象を持っている。  
研修の参加については各館の予算状況もあるので、館長の出張についても抑制されたりしていることもあるのかもしれない。
- (図書館) 館長研修については、各市町、代表1名程度の参加を想定している。1つの市町に図書館が複数ある市町もあるため、参加者数との差がでていく。
- (図書館) 各館の館長全員に受講してもらいたいという思いはあるが、各館職員数など様々な事情もありなかなか館長が参加できない市町もある。そういった場合は実務担当者が参加している。
- (図書館) 複数館をもつ市町においては、1人の館長が複数館の館長を兼務している場合もあるため、県内の図書館96館に対して96人の館長がいるわけでない。なお、司書資格を持つ館長については、延べで約4割程度である。
- (委員) 館長研修の内容について、「これからの図書館像」とはどのような講義内容だったのか。また地区の情報交換会を開催されているようだが、どんな意見を交わされていたか。
- (図書館) 研修内容については、これからの図書館はデジタル化・高齢者向けサービスが必要になるという点について講義された。意見交換会は、各館での実情、特に高齢の来館者への対応や、苦情対応など、各館の現状と課題についての意見交換が多かった。
- (委員) 田辺先生の記念講演について、テーマはどのように設定されたのか。
- (図書館) 読書に関するテーマで講演を依頼した。先生からは「十五少年漂流記」であれば東経135度の話も出来るので、明石に関連した講演ができるとのことだった。また図書館での講演なので県政150周年より、図書に関連した話ができればという思いをお持ちだった。
- (委員) 記念講演は、参加者がすべて80数名であるが、これは定員を80名程度に設定したということか。
- (図書館) 当館で一番大きな部屋の収容人数で設定している。リニューアルオープン記念のため、当館でしたいという思いがあり、他の会場借り上げでの実施は考えていなかった。申込み多数により、お断りせざるを得なかった方がいたのは残念であった。
- (委員) 「図書館 de 婚活」については今後も実施を予定されているか？
- (図書館) 参加者からは好評をいただいております、できる限り継続していきたい。ただ、男女比を同数にする難しさなど課題もあるためその点も考慮していきたい。
- (委員) 婚活の結果はどうだったか。
- (図書館) 最近では、カップル成立の有無が周りにわからないように配慮するのが主流のようで、今回もそのように実施したため当館では把握できていないが、第一印象の結果では6組成立していた。
- (委員) ビブリオバトルは、過去に全県大会を実施していたが、ある時から実施されておらず参加できなくなったという声も一部からあった。上手くいけば多数の参加も見込めるのではないか。ビブリオバトルの結果や積極的な読書活動がAO入試のポイントになる場合もあり、高校生にとっても良い活動の機会になっている。
- (委員) インスタグラムを始めたとのことだが、反応はどうか。フェイスブックと比べてどうか。
- (図書館) フォロワーの数は少ない。ただ、婚活イベントについては拡散してくれた方もいた。フェイスブックのユーザーとは年齢層などが違うのかなという印象である。
- (委員) 自己評価について、アウトリーチの数であるが、学校貸出について貸出冊数が減っているがこれは図書館が選定した図書を借りる形から学校側が積極的・主体的に本を選択するようになってきたということであり、良いことだと思う。
- (委員) 自己評価について、数字で表すことは大切だが、図書館は、あくまでも個人が必要に応じて情報を求めに来る際の受け皿であるため、あまり神経質に数字にばかりこだわる必要はないのではないか。数値で評価できない質の部分もあるだろう。そもそも調べる必要が無ければ図書館へ来て調べ物をする必要もない。あまり数値にとらわれすぎない方が良い。

と思う。

(委員) 他館との数値比較についても、立地など様々な要因も影響してくる。そういった点も考慮すべきである。

(図書館) 数値は、前年度と比較してどうかという、振り返りを行うための一つと指標として役立てていきたいと考えている。

(委員) 新聞記事の掲載について、メール誤送信について伺いたい。原因は単純なミスで、他部署でも同様の事故があったのではないかと記憶している。発生直後の記事では被害は無いとあったが、その後どうか。

(図書館) その後も被害の報告はない。今後の対策として、今回のように一斉送信メールを送信する場合は強制的に全件BCCへ変換するソフトウェアを今年度内に導入することが決定した。

#### (4) 平成31年度事業計画案

図書館より資料4に沿って報告

委員の質問・意見と図書館の説明

(委員) ビブリオバトルについては、ビブリオバトル協会からの制約がたくさんあったように思う。「ビブリオバトル」と銘打つにも届出が必要だったかもしれない。時計掲示ひとつとっても許可をとる必要があるなど基準があったと思うので確認が必要であると思うので調整願いたい。

(図書館) まず、今年度プレ実施として8校程度の学校から参加してもらい運営についても検証していこうと考えている。次年度以降の実施については社会教育課と調整しながら行ってきたい。協会との兼ね合いについても整理していきたい。

(委員) 展示の貸出について、神戸市立中央図書館でも県政150年記念展示を行ったが、ジャズに関する展示が非常に好評であった。次回もジャズに関する展示をしたいと思っているので貴館にお勧めの資料があればぜひ紹介してほしい。

(委員) アウトリーチ事業について、障害者や社会人でも仕事などの理由で図書館に来館しにくい人が来館しやすいように整備するという観点からの検討も必要だと思う。

(図書館) 障害のある方への配慮の点については、福祉のまちづくりアドバイザー制度を利用して、現地視察をいただき、ご意見を頂戴した。予算の制約もあるができるところから対応をするように努めていきたい。

(委員) 神戸市立の図書館でも図書館に行きにくい方への対応をどうするかが課題になっている。特に外国人や認知症の方に対する配慮について考えているところである。

以下、総括など

(委員) 資料もわかりやすく、改めてたくさんの方の事業をされているなという印象を持った。繰り返しになるが資料のデジタル化は、長期的に見れば必要となってくると思う。単年で行うのは難しいと思うが、例えば1年目は調査を行うのはどうか。先進的に取り組まれている岡山県や岩手県の図書館が著作権の問題等についてどのように解決されたのかなどを伺ってみるなど、予算の無い中で時間をかけてできる方法もあるのでは。

アクセスが良くない分、今後も利用者サービスの増進は必要になってくると思う。

(委員) 駅から距離があるため、県立図書館の存在をいかに知らせるかが課題。新しい事業については、きちっとした取組みも大事ではあるが、利用者がゆるい気持ちで参加できるようなものがあったらよいのではないかと。衣・食・住など身近で気楽に参加できるワークショップのようなものできっかけができればいいと思う。

(委員) 神戸市立の図書館では定期的に来館者へ満足度調査のためのアンケートを実施している。図書館の負担にはなるが、継続的に実施することで経年の変化が見えてくる。館の自己評価への参考にもできると思う。

(委員) 前回の協議会で協議された内容についてきちんと対応されており、意見が反映されていると感じ、委員としてもありがたい。

来館者増への取り組みのひとつに「レファレンス大公開(仮称)」とあるがこれを、市町立図書館に還元していただきたい。レファレンスの樹について、件名毎に掲載するなど手に取った職員が検索しやすい方法を考えていただきたい。そうすることで市町立図書館職

員がレファレンスを受けた際にも活用しやすくなると思う。

(委員) やはりこれからは、高齢者サービスが核になっていくと思う。学校サポート講座などで、いなみの学園など高齢者大学などの施設と関わっていく機会を増やして行ってほしい。市町立図書館に対して、何かお手本になるようなものができていけばと思う。

(委員) この図書館は、資料費が少なく、立地も良くない、認知度も高くないと非常に厳しく難しい状況でやっていかないといけない立場だと思う。企画が少し堅いような印象をうけた。外国人や高齢者やの方への対応という課題も含めて、もう少し柔らかくしてもいいのではとも思う。誰に相談すればいいかわからないような事柄を、図書館が聞いてくれるというような場所にもなれば。駅から離れた小高いところにあるという立地を逆に強みにできないか、みんなで考えていきたい。

(委員) 兵庫県在住の作家はたくさんいる。県下在住の作家さんの特集を組み、うまくいけば作家さんからコメントをもらえたり、講演をしてもらえるかもしれない。次々といろいろな企画を打ち出しておられるが、部屋の収容人数の問題で多くの人を集めにくいという面があり、数字へ反映されにくいいため、あまり数字だけにとらわれず、質の面、満足度などなどを評価に組み込めていく方法を考えてもらえればと思う。